

Adobe

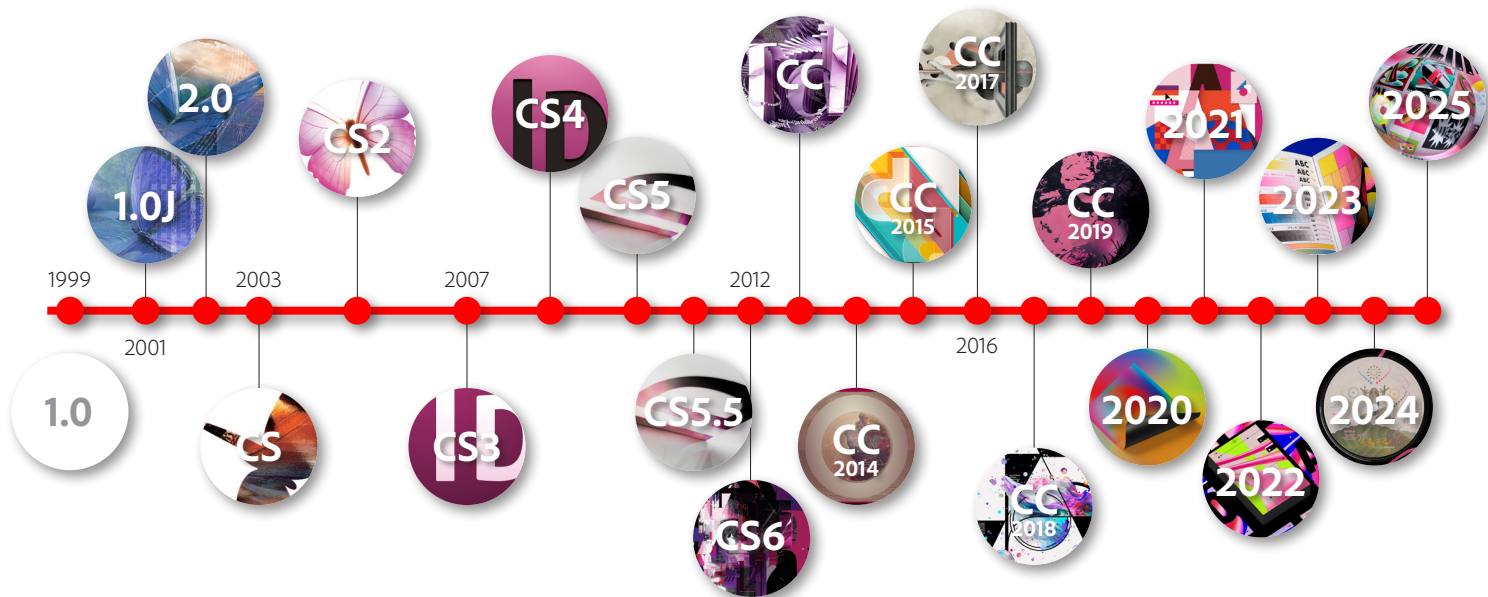
Adobe InDesign

互換性ガイドブック 2025



InDesign について

InDesign ヒストリー



バージョン表記について

2013年リリースのバージョン表記

InDesign CC 8.0

2014-16年リリースのバージョン表記

InDesign CC **2014**
9.0

2017年リリース以降のバージョン表記

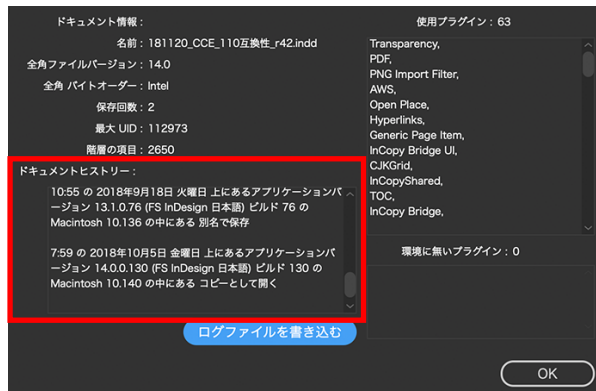
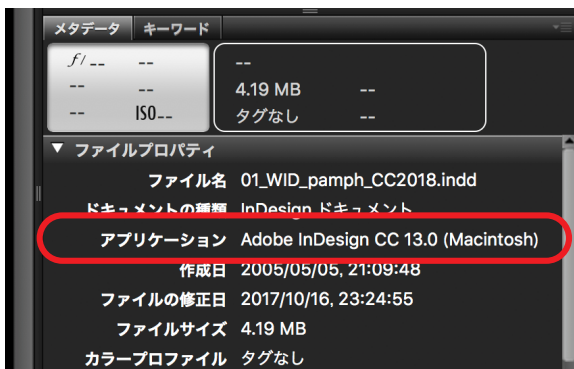
InDesign **20.0**



ドキュメントファイルでバージョンを確認する方法

作成バージョンの情報はドキュメントファイルに記載されます

- ・ファイル情報(メタデータ)：ファイルプロパティ(基本)の「アプリケーション」項目
- ・ドキュメントを開いた状態で「ドキュメントヒストリー」を参照



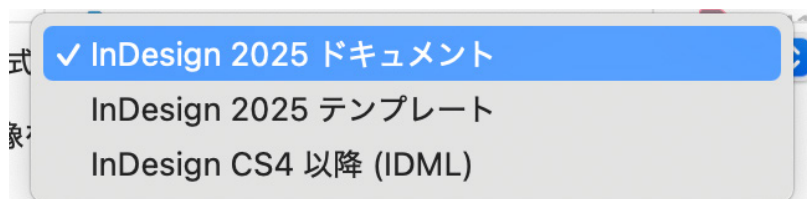
Ctrl/Cmdキーを押しながらInDesignメニュー>InDesignについてを選択して開きます。

InDesignの互換性ポリシー

注意：InDesignドキュメントは互換性への配慮がありません。

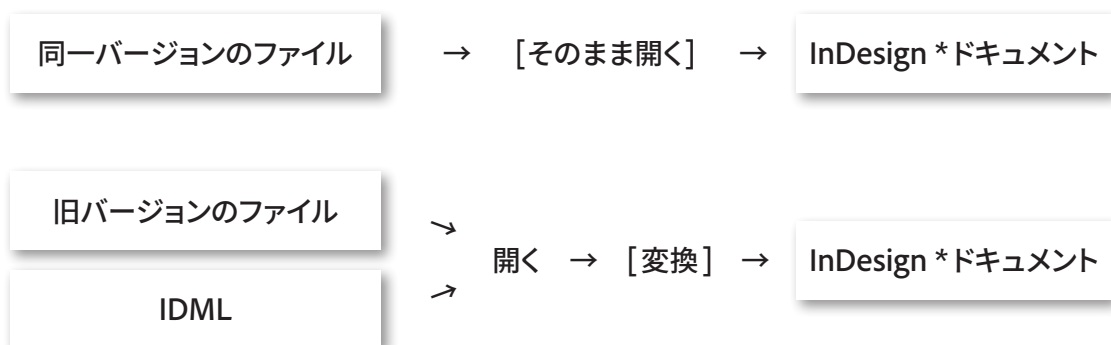
互換性ポリシー

Illustrator、Photoshopと異なり、保存時に互換性に配慮した最適化処理をしません。
IDML形式以外は、旧バージョンで開くことは一切できません。



IDML形式は「InDesign CS4以降(IDML)」と表記されていますが、以前のバージョンでファイルが開けることを示しているだけで、データ再現性は保証されていないのでご注意ください。

そのまま開けるのは同一バージョンのInDesignドキュメント(.indd)のみです。
それ以外のドキュメント形式の場合、**開く際に必ず変換処理されます。**
保存時には、新規保存になります。



特に組版に関して、変換処理されたのちに必ず検証が必要になりますのでご注意ください。

対処済みの重要な問題等の詳細は下記リリースノートをご参照ください。

InDesign リリースノート

<https://helpx.adobe.com/jp/indesign/indesign-releasenotes.html>

InDesignはワークフロー単位で、バージョンを統一して運用するようにしてください。

ネイティブ入稿の場合

必ずパッケージ機能を利用し、パッケージされたフォルダーごと入稿してください。

PostScript Type1フォントのサポート終了

PostScript Type1フォントのサポート終了

InDesign v 18.2以降、PostScript Type1フォントはサポートが終了し、認識されなくなりました。既存のドキュメントに使用されている場合、「環境にないフォント」扱いになり、正しく再現できなくなります。

PostScript Type1フォントが使用されているドキュメントがある場合には、あらかじめOpenTypeなどサポートされるフォント形式に置き換えるなどの対処をおすすめします。

PDF形式などにフォントが埋め込まれている場合には、引き続きそのまま再現することができます。Acrobatで開いたり、InDesignやIllustratorに配置画像として使用する場合は、特に変更がありません。

なお、フォントによっては、フォント形式の変更に伴い仕様変更されているものもあります。詳しくは開発元のフォントメーカーにお問い合わせください。

ドキュメントを開く前に、ドキュメントに使用されているフォントの一覧を確認したい場合、少なくともCS2以降で作成されたものであれば、ドキュメントのメタデータを参照することで使用フォントの一覧を確認できます。Adobe Bridgeのメタデータパネルでは、フォント形式の確認まではできませんが、メタデータそのものにはフォント形式の記載がされています。

詳細を確認したい場合、Adobe Bridgeのファイルメニュー>ファイル情報>Rawデータで<xmpTPg:Fonts>タグ以下を参照してください。

<stFnt:fontType>Type 1</stFnt:fontType>というタグが記述されたものがあれば、PostScript Type1フォントが使用されています。

詳しくは下記をご参照ください。

PostScript Type 1 フォントのサポート終了

<https://helpx.adobe.com/jp/fonts/kb/postscript-type-1-fonts-end-of-support.html>



※【改訂】以前の記述では、CIDフォントを含むとしていましたが、CIDフォントは当面認識可能になります。

そのほかの注意点

Pantone カラーブックのライセンス変更

ライセンスモデルの変更に伴い、Pantone カラーブックは提供されなくなりました。Pantone カラーをご使用のお客様は、Pantone ライセンスを Adobe Exchange の Pantone Connect プラグイン経由で入手してください。

テキスト書式のコピー&ペースト

最新版の InDesign では、InDesign から Illustrator、Illustrator から InDesign に、それぞれテキストのスタイル(書式、属性)を保持しながらコピー&ペーストする機能が強化されています。現時点では、テキストエンジンや実装の違いなどに起因する制約があります。特に日本語組版の機能では、属性によっては機能的にはサポートされているはずなのに反映されなかったり、片方向のみ属性が反映されるなど、不安定な部分があります。

今後のアップデートでさらに相互運用性を高めていく予定です。詳細が分かり次第、解説していきます。

日本語翻訳表記の変更

InDesign で修正された日本語翻訳

<https://helpx.adobe.com/jp/indesign/kb/fixed-japanese-translation-issues.html>

InDesign 2020 以降の主な日本語翻訳表記の変更点

修正箇所	変更前	変更後
	ブックレット	小冊子
	プライマリテキストフレーム	テキストフレームの自動生成
	プライマリテキストフロー	テキストフレームの自動生成フロー
オブジェクトメニュー／選択	内容	コンテンツ
プリセット関連のメニュー	定義	プリセットを管理
書式メニュー／空白文字を挿入	間隔	スペース
文字スタイルおよび段落スタイル／一般画面		スタイル設定内の誤訳または翻訳不統一を修正
スタイル画面	基本にリセット	基準にリセット
編集メニューの取り消しまたはやり直し	フレームの塗り	サンプルテキスト
CCライブラリパネル	(カラータイプの翻訳)	レジストレーション
CCライブラリパネル	(カラータイプの翻訳)	プロセス
合成フォント画面	ライン	ベースライン
書式メニューやキーボードショートカットキー画面	パステキスト	パス上文字
セルの属性画面	段落分離禁止オプション	行分割禁止オプション
テキストフレーム設定画面		配置オプションの翻訳不統一を修正
オブジェクト書き出しオプション／EPUBおよびHTML画面		EPUB形式のリストを日本語に翻訳
	マスターページ	親ページ
書式メニュー	フォントを検索して置換	フォントの検索と置換
書式メニュー／分割文字を挿入	強制改行	段落改行
環境設定／テキスト画面	オプティカルサイズをバリエーションのフォントサイズにマッピング	バリエーションのオプティカルサイズを文字サイズに連動
スウォッチパネルのオプション表示	新規混合インキグループ	新規混合インキグループ
編集メニュー	フォーマットなしでペースト	書式なしでペースト
書式メニュー／大文字と小文字の変更	段落の先頭のみ大文字に変換	文頭のみ大文字に変換
オブジェクトメニュー／シェイプを変換		メニュー内の翻訳不統一を修正
ウィンドウメニュー／アレンジ	アップ	分割表示
ウィンドウメニュー／アレンジ		翻訳不統一を修正
線パネル	揃え	先端位置
メディアパネル		ツールチップの文言を修正
段落の囲み罫と背景色の画面	列	段
段落分離禁止オプション画面	前と連動	前の段落と泣き別れしない
コーナーオプション画面		シェイプのオプション内の翻訳不統一を修正
プリント画面	コピー	部数
PDFを配置画面／トリミングオプション	境界ボックス	バウンディングボックス
Adobe PDFを書き出し画面	モノクロ画像	白黒画像
Adobe PDFを書き出し画面	印刷可能	印刷を許可
Adobe PDFを書き出しや目次画面	ブックマーク	しおり
キーボードショートカット画面	ポイントサイズ	フォントサイズ
簡条書き画面	段落番号、番号付け	自動番号
表機能	セルを結合しない	セルを結合解除
	文末脚注	後注
オブジェクトメニュー	角オプション	コーナーオプション
プロパティパネル	スレッドテキストフレーム	連結テキストフレーム
PDFを配置画面／トリミングオプション	トンボ	仕上がり
段落スタイル画面	字送り	トラッキング

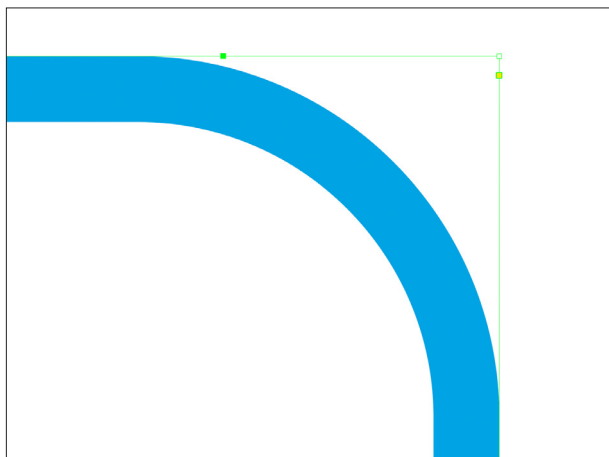
日本語翻訳表記の変更（続き）

InDesign 2019–2017の主な日本語翻訳表記の変更点

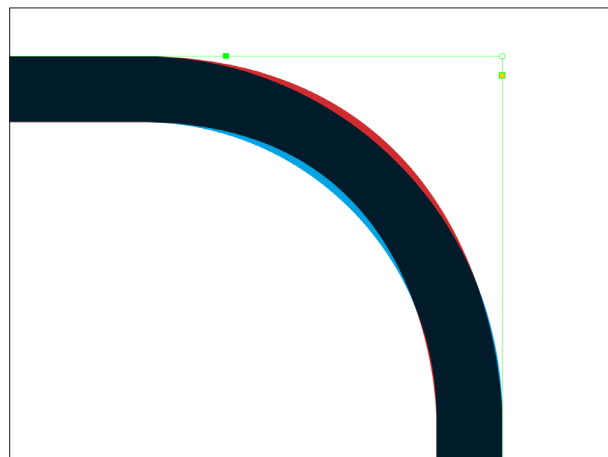
修正箇所	変更前	変更後
書式メニュー	スペースの挿入	空白文字を挿入
オブジェクトメニュー／変形を再実行	変形シーケンスを再実行	一連の変形を再実行
オブジェクトメニュー／変形を再実行	変形シーケンスを個別に再実行	一連の変形を個別に再実行
環境設定／組版画面	CID ベースの文字組みを使用	文字組みアキ量設定の文字クラスをCIDベースにする (Adobe-Japan1のみ)
環境設定／組版画面	縦組み用の引用符を使用	縦組みで引用符を横組み用として使用する
環境設定／高度なテキスト画面		「コンテキスト機能からのテキスト制御」およびオプションの翻訳を修正
環境設定／インターフェイス画面、ライブスクリーン描画オプション	延期	遅延
環境設定／グリッド画面		ベースライングリッド内の翻訳を修正
環境設定／ガイドとペーストボード画面		スマートガイドオプションの翻訳を修正
段落パネルのオプション表示	連数字処理	連数字処理 (欧文数字を除く)
字形パネルのGID/CID情報	等幅オールドスタイル数字	等幅数字
字形パネルのGID/CID情報	等幅ライニング数字	ライニング数字
字形パネルのGID/CID情報	ライニング数字	プロポーショナル数字
パネル名やメニュー	分版	分版プレビュー
分版プレビューパネルのオプション表示	黒を脱色	リッチブラックをシミュレート
ジャスティフィケーション画面	グリフ幅拡大 / 縮小	文字幅拡大 / 縮小
プリフライトプロファイル画面で、画像とオブジェクト内	レイヤーの可視性オーバーライド	レイヤー表示のオーバーライド
Adobe PDF を書き出し画面	末尾に追加	サフィックス
インタラクティブPDFに書き出し画面	見開き印刷	見開き
フォントリスト		アイコンのツールチップの翻訳を修正
線パネル	先端の形状	線端
線パネル	先太	線端なし
整列パネル		整列や分布ツールチップの翻訳を修正
パスファインダーパネル		ツールチップの翻訳を修正
表パネル	字方向	組み方向
ページパネルのオプション表示のページ属性	スプレッドの単層化	スプレッドの透明を統合
テキストの回り込みパネル		回り込みオプション内の翻訳を「ノド側」や「小口側」に修正
文字スタイルおよび段落スタイル／一般画面	組数字	数字の縦中横
段落スタイル／インデントとスペース画面		揃えオプション内の翻訳を「ノド揃え」や「小口揃え」に修正
段落スタイル／インデントとスペース画面	同じスタイルを使用した段落間のスペース	同一設定段落の間隔
OpenType 機能	オールドスタイル数字	プロポーショナルオールドスタイル数字
OpenType 機能	ライニング数字	プロポーショナルライニング数字
セルの属性画面	セルの余白	セル内の余白
後注オプション画面で、フレーム配置先オプション	配置カーソルの読み込み	配置カーソル
Adobe InDesign タグ付きテキストの読み込みオプション画面で、テキストスタイルの競合を修正オプション	パブリケーションの定義	ドキュメントの定義
プリント／グラフィック画面		解像度オプション内の翻訳を修正
環境にないフォント画面		ラベル名やメッセージの翻訳を修正
フォントの検索と置換画面		ラベル名やツールチップの翻訳を修正
パッケージ画面	印刷の指示	出力仕様書
パッケージを保存時の画面	フォントをコピー (Adobe Fonts および非 Adobe CJK フォントから有効にしたものを除く)	フォントをコピー (Adobe 以外の日中韓フォント及び Adobe Fonts からのフォントを除く)
ファイルメニュー	CC Libraries から配置	CC ライブラリから配置
Adobe PDF を書き出し画面で、サフィックスオプション	増分数	連番
OpenType 機能	デザインのセット	スタイルセット

角丸処理の変更

InDesign 2020 (v 15) 以降、角丸オプションの描画が正円形状になるよう変更されています。そのため、以前のバージョンの描画とは若干異なる再現結果になります。



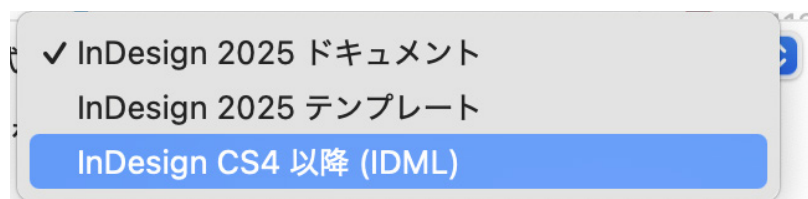
InDesign 2020 以降



以前のバージョン(赤色)との差分

IDML形式

IDMLとは



InDesign Markup Language

ネイティブファイル (.indd) 同様、ドキュメントの再現情報を保持します。内部はすべてXMLで記述されます (.idmlファイルはZIP圧縮されています)。

CS4以降で開くことができます。旧バージョンとの互換性は配慮されませんのでご注意ください。

CS6のIDMLについての詳細は下記をご参照ください。

www.adobe.com/devnet/indesign/documentation.html

